

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																											
鳥取市医療看護専門学校	平成26年8月22日	下田光太郎	〒680-0835 鳥取県鳥取市東品治町103-2 (電話) 0857-30-7066																											
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																											
学校法人大阪滋慶学園	昭和62年3月31日	理事長 浮舟 邦彦	〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-8 (電話) 06-6150-1301																											
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																										
医療	医療専門課程	作業療法士学科	平成28年2月29日 文部科学省告示第18号	0																										
学科の目的	本校の建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」に基づき、「病院・施設から在宅・地域へ」のシステムの構築が進む中、時代と社会と地域に即した作業療法士を養成する。																													
認定年月日	令和2年3月25日																													
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																								
3年	3510時間	1275時間	570時間	1665時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒委員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
120人	91人	0人	7人	25人	32人																									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日 必要がある場合、学校長が上記に定める前期の終期および後期の終期を変更する。		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 作業療法士学科で定める試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。成績評価はGPA評価にも基づいて行っている。また、各科目の授業時間数の3分の1以上欠席した者はその科目の評価を受けることができない。																										
長期休み	■学年始め:学校長が定める日 ■夏 季:1週間以上 ■冬 季:1週間以上		卒業・進級条件	・所定の科目を履修し、全141単位を取得すること。 ・所定の授業日数の3分の1以上欠席したものは進級、卒業はできない。 ・卒業時:国家試験対策科目履修としての卒業試験の合格																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生と保護者の両者と面談する。		課外活動	■課外活動の種類 体育祭・新風祭(学校祭)の実施 鳥取しゃんしゃん祭りへの参加、ボランティア活動 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 社会福祉法人こうほうえん、 ウェルフェア北園渡辺病院等 ■就職指導内容 就職説明会、就職マナー、履歴書指導、面接指導、キャリアカウンセリング ■卒業業者数: 27 人 ■就職希望者数: 26 人 ■就職者数: 26 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 96 % ■その他 0 (平成 30 年度卒業生に関する 令和元年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士</td> <td>②</td> <td>27人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>語彙読解力検定(3級)</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>語彙読解力検定(準2級)</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター(2級)</td> <td>③</td> <td>31人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>障がい者スポーツ指導員(初級)</td> <td>①</td> <td>34人</td> <td>34人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	作業療法士	②	27人	26人	語彙読解力検定(3級)	③	35人	34人	語彙読解力検定(準2級)	③	26人	18人	福祉住環境コーディネーター(2級)	③	31人	10人	障がい者スポーツ指導員(初級)	①	34人	34人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																											
作業療法士	②	27人	26人																											
語彙読解力検定(3級)	③	35人	34人																											
語彙読解力検定(準2級)	③	26人	18人																											
福祉住環境コーディネーター(2級)	③	31人	10人																											
障がい者スポーツ指導員(初級)	①	34人	34人																											
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 2% 平成30年4月1日時点において、在学者92名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者90名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 健康問題、意欲喪失 ■中退防止・中退者支援のための取組 2者面談、保護者との3者面談、学習サポート(補講対策)、キャリアサポートアンケートの実施 学生カウンセラー配置、ボランティア活動等																													
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構(受審年月 平成30年3月31日) http://jcore.or.jp/accreditation.html																													
当該学科のホームページURL	https://www.tcmn.ac.jp/																													

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規職の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業業者のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門性の高い職種(医師、作業療法士、義肢装具士など)と連携・協力しながら、患者中心のチーム医療を実践するために必要な医療人としての倫理観と社会で活躍できる基礎的能力を身につける。また、社会情勢や医療業界が求める内容、最新のリハビリテーション関連機器などについての講義や実技を取り入れて、学生に提供できる体制を整え、実践力を身につける。地域行政機関・地域企業・地域住民と連携・協力しながら地域の文化や生活を理解し、地域に貢献できる作業療法士を育成することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園 教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園 教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。反映にあたっては、学科の学科長をはじめとする学科教員が主体的に行い、必要に応じて教務部長、事務局長、学校長と相談・了承のうえ反映する。学則変更を伴う場合は、理事会の承認を得たうえで反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
下田 光太郎	鳥取市医療看護専門学校 学校長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
谷口 雅江	鳥取市医療看護専門学校 副学校長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
辻村 肇	鳥取市医療看護専門学校 教務部長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
辻村 恵子	鳥取市医療看護専門学校 看護学科 学科長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
田中 利昭	鳥取市医療看護専門学校 理学療法士学科 学科長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
平松 哲哉	鳥取市医療看護専門学校 言語聴覚士学科 学科長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
横山 加奈子	鳥取市医療看護専門学校 看護学科 副学科長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
中井 京子	鳥取市医療看護専門学校 看護学科 副学科長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
可成 孝多	鳥取市医療看護専門学校 理学療法士学科 副学科長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
森田 愛	鳥取市医療看護専門学校 言語聴覚士学科 副学科長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
石橋 康信	鳥取市医療看護専門学校 作業療法士学科 教員	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
荒木 欣典	鳥取市医療看護専門学校 事務局次長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	
内田 眞澄	公益社団法人 鳥取県看護協会	令和元年7月1日～令和3年3月31日	①
間庭 弘美	鳥取市立病院 看護局長	令和元年7月1日～令和3年3月31日	③
横山 洋介	鳥取医療生活協同組合 鳥取生協病院	令和元年8月1日～令和3年3月31日	③
橋本 和幸	社会医療法人仁厚会 藤井政雄記念病院	令和元年7月1日～令和3年3月31日	③
前田 幸一郎	社会福祉法人 西宮市総合福祉センター	令和元年8月1日～令和3年3月31日	③
浅野 広太	医療法人 平病院	令和元年7月1日～令和3年3月31日	③
横田 嘉子	独立行政法人国立病院機構 鳥取医療センター	令和元年7月1日～令和3年3月31日	③
小川 嶺	社会医療法人 明和会医療福祉センター ウェルフェア北園渡辺病院	令和元年7月1日～令和3年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、10月)

(開催日時)

第1回 令和元年 8月30日 14:45～16:15

第2回 令和元年10月11日 15:00～16:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

実習に来る学生について、モチベーションを高めるために、目標をノートに書き常にそれを見て意識を高めることも必要だ
という意見をいただいた。本学科としては、プロジェクト学習として、目標を定めて自分がしたことを蓄積し確認できるポート
フォリオ方式で行うように心がける。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

日頃の学習を実践の場にて確かめ、職業教育を施すのが臨床実習の狙いである。臨床実習では県内外の病院・施設に
学生の受け入れを依頼し、受け入れの契約を行い、1～2ヶ月にわたり進めていく。また、実習前にはボランティア活動を行
うことによって、学生個々の課題を克服し、それを実習につなげていく。

また、授業カリキュラムの中で、地域や障がい者へのかかわりを深め、地元の即戦力となる人材を育成し、作業療法士と
しての実践力を向上するための取り組みを行っている。具体的な授業との関連は、地域作業療法学(バリアフリー点
検)、チーム医療論(医療ロボットの活躍と展望)である。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業連携科目①「見学実習」では、施設・病院の作業療法士に付いて作業療法や業務を見学し、作業療法士の役割や対
象者への関わり方を学ぶ。施設・病院との連携に関しては実習前に学生の特性等、学生情報の共有、実習期間中の連絡
や実習地訪問で経過を共有し指導方法・内容を協議する。実習後は実技試験の結果を実習前と比較して、施設・病院と
共有・協議して指導方法・内容の刷新を図る。学修成果の評価の連携は連絡・実習地訪問時に施設・病院とルーブリック
評価に基づいて協議した内容と結果をふまえる。

企業連携科目②「臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」実習前に学科主催で臨床実習指導者会議を開催。実習における学生評価を含む
実習要綱については、学外実習の手引きを作成し、実習指導者と学科教員との指導のあり方について共通理解を得る。
施設・病院との連携に関しては実習前は学生情報書類や面談で学生情報の共有、実習期間中の連絡や実習地訪問で経
過の共通理解を得て、指導方法・内容を協議する。実習後は施設・病院へ実技試験の結果を実習前と比較した内容の共
通理解を得る。学修成果の評価の連携は連絡・実習地訪問時に施設・病院とルーブリック評価に基づいて協議した内容と
結果をふまえる。

企業連携科目③「チーム医療論」医療ロボットを開発している地元の企業から開発された医療機器を体験することで、最
近の医療業界におけるAIの導入が将来従事するリハビリテーションに対しどのように関与していくか、その展望を学ぶ。企
業との連携では授業前に授業内容と教育方針の共通理解を得るために協議する。学修成果の評価における連携はレ
ポートや報告会での内容を基に企業と協議する機会を設ける。

企業連携科目④「地域作業療法学」鳥取駅周辺のバリアフリーの状況を車いすや視覚障がい者の方と共に点検し、問
題点を指摘し、行政に意見として提案する意見交換会にて発表する。学生は地域貢献に関わることができ、障がい者の不
便さを解消することで、生活の質について理解を得る。企業との連携では授業前に授業内容と教育方針の共通理解を得
るために協議する。学修成果の評価における連携はレポートや報告会での内容を基に企業と協議する機会を設ける。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
見学実習	医療現場において、作業療法の基礎的な知識・技術の習得	鳥取生協病院、鳥取赤十字病院、鳥取医 療センター、ウエルフェア北園渡辺病院、 尾崎病院 等(総数18施設)
臨床実習Ⅰ	症例を担当し、評価計画立案と評価の実施	鳥取市立病院、鳥取県立中央病院、鳥取 生協病院、ウエルフェア北園渡辺病院、 鳥取医療センター 等(総数23施設)
臨床実習Ⅱ・Ⅲ	症例を担当し、評価や治療の実施	鳥取市立病院、錦海リハビリテーション病 院、鳥取生協病院、鳥取医療センター、 龍野中央病院 等(総数51施設)
チーム医療論	医療ロボットの活躍と展望	株式会社LASSIC(ランシク)
地域作業療法学	鳥取駅周辺バリアフリー点検	鳥取市福祉保健部障がい福祉課、鳥 取市中心市街地活性化協議会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

就業規則第7章教育訓練の第72条の研修教育に基づき、学園は教職員の能力の開発・育成のために研修教育を計画的に実施しなければならない。

現在の医療事情と人材育成を踏まえ、学生指導に何が必要か考慮した上で、滋慶学園グループにおける研修や、その他の団体での研修、学会の発表などを積極的に進めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第31回教育研究大会・教員研修会」(連携企業等: 全国リハビリテーション学校協会)

期間: 平成30年8月24・25日(金・土) 対象: 作業療法士学科教員1名

内容: 「卒後と卒前の教育連携」のテーマで大会が開催され、対象となる全国のリハビリテーション養成校の教員が集まり、特別講演と実践講座、口述発表とポスター発表が行われた。特別講演と実践講座の聴講と参加した。また、ポスター発表において、他養成校の教員と研究についての意見交換や協議をした。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「臨床実習指導者研修」(連携企業等: 一般社団法人 日本作業療法士協会)

期間: 平成31年2月2・3日(土・日) 対象: 鳥取県作業療法士会代表教員

内容: 2020年4月からPT・OT学校養成施設指定規則の改正に伴う臨床実習の在り方に関して受講した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第53回日本作業療法学会」(連携企業等: 一般社団法人 日本作業療法士協会)

期間: 令和元年9月6～8日(金～日) 対象: 作業療法士学科教員1名

内容: 事例報告やシンポジウム、口述・ポスター発表など作業療法に関わる学術的大会である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員研修」(連携企業等: 大阪滋慶学園)

期間: 令和2年3月17日(火) 対象: 作業療法士学科教員1名

内容: 退学者防止に向けた教員に必要な能力・スキルについて考える研修であり、基調講演のあと、グループワークによって情報の共有ならびに個人の目標と計画を立てていく。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもである。

本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などとともに、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報システム
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格取得の指導体制、教員・教員組織
(4)学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
(5)学生支援	就職支援、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者連携、卒業生・社会人支援
(6)教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制、安全管理
(7)学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

地域の期待を担っている学校でもあり、地域の小・中・高と連携した授業の改善や行事での連携が出来るかも知れないという意見を基にして、地域の学校と連携をとり、作業療法や作業療法士の役割を理解してもらう内容の出張授業を実施する。また、出張授業後にアンケートを実施して授業内容の改善を図る。行事での連携に関しては積極的に地域行事にボランティアとして参加し、作業療法の認知度を高めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
内田 眞澄	公益社団法人 鳥取県看護協会	令和元年7月1日～令和3年3月31日	企業等委員
横田 嘉子	独立行政法人国立病院機構 鳥取医療センター	令和元年7月1日～令和3年3月31日	企業等委員
浅野 広太	医療法人 平病院	令和元年7月1日～令和3年3月31日	企業等委員
竹内 一敏	鳥取市健康こども部保健医療福祉連携課	令和元年7月1日～令和3年3月31日	地域公共団体
中島 靖雄	鳥取県立八頭高等学校	令和元年7月1日～令和3年3月31日	高等学校関係
中島 凌	鳥取医療生活協同組合 鳥取生協病院	令和元年7月1日～令和3年3月31日	卒業生
福安 佳子	保護者代表	令和元年7月1日～令和3年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL: <https://www.tcmn.ac.jp/common/doc/jyouhou/schoolyouka.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が保有する情報の公開及び開示に関し必要な事項を定め、当該情報を積極的に公開することにより、教育活動や取り組みについて、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や業界全体からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	大阪滋慶学園について、学校の沿革と教育目標、教育システム
(2)各学科等の教育	学科の3つのポリシー、学科別教科目標、学科別教科課程、シラバス
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、学年暦、学外研修マニュアル、実習先一覧、課題研究
(5)様々な教育活動・教育環境	資格サポート、就職サポート、施設紹介
(6)学生の生活支援	学生マンション、メンタルサポート
(7)学生納付金・修学支援	学費について、奨学金制度・教育ローン
(8)学校の財務	財務状況について
(9)学校評価	自己点検・自己評価
(10)国際連携の状況	国際教育
(11)その他	ボランティア活動実績、ことば教室

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tcmn.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法士学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			物理学	人体の運動の基礎となる物理学的知識（バイオメカニクス）について学ぶ。	1前	30	2	○	○		○		○		
○			人間心理学	人間の行動に隠されている様々な心の働きを知り、科学的な実験を通して基礎的な人間の心理を理解する。	1前	30	2	○	○		○		○		
○			文章表現	作業療法士として必要となるレポート作成に関わる基本的な文章表現能力を学ぶ。	1前	30	2	○	○		○		○		
○			情報科学	作業療法士として必要なコンピュータの基本操作、Word、Excel、PowerPointの基本的操作方法を学ぶ。	1前	30	2	○	○		○			○	
○			コミュニケーション学	グループワークを通して医療人として話す、表現するというコミュニケーション能力の向上をはかる。	1前	30	2	○	○		○			○	
○			倫理学	道徳的判断の対象、義務についての意思の自由と責任について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			人間発達学	人間の一生には様々な発達段階があり、各発達段階での劇的な発達の特徴を、身体面や認知面、社会面等から理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			解剖生理学（骨格・関節・筋系）	解剖学・生理学的視点から、骨格、関節、筋系の理解を進め、人体構造、機能、病態理解を関連づけて学ぶ。	1前	60	4	○			○			○	
○			解剖生理学（神経）	身体の構造と機能のうち神経系の解剖、生理を学んでいく。疾患や障害の理解、リハビリテーション実施の基礎となるものである。	1通	60	4	○			○			○	
○			機能解剖学Ⅰ	骨格、関節、筋系の解剖学的、運動学的な理解を深めるため、実習を通して骨、関節の構造と機能について学ぶ。	1前	30	1	○	○		○			○	
○			運動学（上肢）	人体の解剖、生理学的理解をもとに、人体の運動器の正常運動特性について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの定義、歴史、目的をはじめ対象者理解、職業理解を深める。	1前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法士学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			基礎作業療法 学実習	作業療法の治療手段としての様々な作業活動を通して、基礎的な知識、技術を習得し、治療的応用を身につける。	1前	30	1	○	○		○		○		
○			基礎作業療法 学	学習としての作業治療学成立の歴史的背景や構造などの基礎知識と、作業分析や指導法などの基礎技法を学ぶ。	1前	30	2	○	○		○		○		
○			作業療法概論 I	作業療法の基礎的知識、思考力、実践能力及び態度を身につけ、作業療法の対象、目的、手段やプロセスなどを学ぶ。	1前	30	1	○			○		○		
○			作業療法評価 学	作業療法評価の実践のため、評価計画立案、統合と解釈、治療計画立案など演習を通じて学ぶ。	1前	30	1	○			○		○		
○			見学実習	作業療法場面を見学し、対人援助職としての基礎能力及び基礎的知識、技術、態度について学む。	1前	45	1			○		○			○
○			国家試験演習 I	国家試験受験に向けて、学習方法を確立し、学習習慣を身につける。	1前	30		○	○		○		○		
○			英語と英会話	作業療法士に必要な解剖学、運動学、リハビリテーションに関連する英単語、略語、英文解釈について学ぶ。	1後	30	2	○	○		○			○	
○			社会福祉学	作業療法士の福祉的働きかけの基本的視座として、社会福祉学を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
○			統計学演習	作業療法研究に必要な統計的理解を進め、実践できるようにする。	1後	30	1	○	○		○			○	
○			解剖生理学 (内部系)	解剖学・生理学視点から内部系の理解を進め、人体構造、機能、病態理解と関連付けて学ぶ。	1後	90	6	○			○			○	
○			解剖生理学実 習	ヒトの構造と生理機能の理解を深めるため、観察、検査、測定などの実習を通して、評価の基礎や主体データについて学ぶ。	1後	30	1	○		○	○		○		
○			機能解剖学Ⅱ	骨格、関節、筋系の解剖学的、運動学的な理解を深めるため、実習を通して筋の構造と機能について学ぶ。	1後	30	1	○	○		○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法士学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			運動学実習Ⅰ	人体の解剖、生理学的理解をもとに、人体の運動器の正常運動特性について学ぶ。下肢について理解を深める。	1後	30	1	○		○	○		○		
○			臨床心理学	心理の正常と異常の違いを通して、精神的な疾患、心理療法、カウンセリングの方法について実践的に学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
○			病理学概論	生体に起こる病的障害の原因、成立過程及び結果を正しく把握し、生体の刺激に対する組織的変化機能的変化を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション医学	リハビリテーションの対象となる主たる疾患の理解とリハビリテーション介入の基本について学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
○			チーム医療論	他職種の専門性を学び、リハビリテーションにおけるチームアプローチの理解を深める。	1後	30	1	○	○		○		○		○
○			作業療法概論Ⅱ	ICF,OTの理論、医療安全や職業倫理、管理、運営、教育や関連法、制度について学ぶ。	1後	30	1	○			○		○		
○			作業療法評価学実習Ⅰ	作業療法評価の基本的概念の理解、及び主に関節可動域測定を解剖生理学-骨格・関節・筋系の知識と結びつけて理解を求める。	1後	30	1	○		○	○		○		
○			作業療法評価学実習Ⅱ	作業療法評価の基本的概念の理解、及び主に徒手筋力検査を解剖学・運動学の知識と結びつけて理解を求める。	1後	30	1	○		○	○		○		
○			作業療法総合実習Ⅰ	体力測定や様々なトレーニング体験を経験することで自分の体についての意識を高め、学んだ内容を他者に伝えることでコミュニケーション能力や実践力の向上を目的としていく。	1後	30	1		○	○		○			○
○			作業療法総合演習Ⅰ	グループ演習を取り入れ、自己理解、他者理解を深め、対象者と作業療法士との適切な関係について学ぶ。	1後	30	1	○	○		○		○		
○			国家試験演習Ⅱ	国家試験受験に向けて主に専門医学関連について理解を深め、学習方法を確立し、学習習慣を身につける	1後	30		○	○		○		○		
○			運動学実習Ⅱ	顔面、頭部の構造と運動、運動の生理機能への影響、運動学習を学び、姿勢分析や運動分析動作分析を行う。	2前	30	1	○		○	○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法士学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			内科学	臨床医学の面から基礎的医学知識を整理し、各臓器、組織系統の疾患や、病因、診断、治療についての概要を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			神経内科学	神経症候学、神経内科、脳神経外科領域で見られる疾患、障害の基礎的知識について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			整形外科学	外科系臨床医学で、骨・関節・筋・靭帯・末梢神経等、運動器疾患を扱う分野の各病態、診断や治療、予後等の概要を学ぶ。	2前	30	2	○			○				○
○			小児科学	小児の成長・発達と、小児によく見られる各種疾患などの基礎的特異性を学ぶ。	2前	30	2	○			○				○
○			精神医学	行動観察と症状の把握、治療者と患者の心理的関係など多角的側面から精神疾患について理解する。	2前	30	2	○			○				○
○			薬理学	薬物の特徴、作用機序、人体への影響を知り、医療法を正しく理解する。	2前	30	2	○			○				○
○			作業療法評価学実習Ⅳ	観察・検査・測定などを通して、評価の基礎を学ぶ。作業に焦点をあてた作業療法実践のための演習を事例を通して進める。	2前	60	2	○		○	○				○
○			高次脳機能障害治療学	「目には見えない障害」と言われる高次脳機能障害について、その病態や作業療法を学ぶと共に脳機能について考える。	2前	30	2	○			○				○
○			身体障害治療学Ⅰ	身体機能障害の治療原理・技術について学ぶと共に、パーキンソン病について、その病態や作業療法を学ぶ。	2前	30	2	○	○		○				○
○			精神障害治療学Ⅰ	精神疾患における作業療法評価法、治療法の基本的な考え方について習得する	2前	30	2	○	○		○				○
○			日常生活活動学	日常生活活動について学び、対象者を日常生活上の問題点や利点から課題を分析する力を養う。	2前	60	2	○	○		○				○
○			作業療法総合演習Ⅱ	地域で活動・活躍できる作業療法士になるため、初級障がい者スポーツ指導員取得を目指す。	2前	30	1	○	○		○				

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法士学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			地域作業療法学	地域における作業療法の理解を深め、地域作業療法実践の基盤を築く。	2前	30	2	○	○		○		○		
○			地域医療論	地域医療の法的理解、地域医療のシステムの理解、実践例を通じて、地域医療の理解を深める。	2前	30	2	○			○		○		
○			臨床実習入門	臨床実習参加を前に、医療従事者のあり方について考え、社会人としてのマナー、臨床での面接・会話について学ぶ。	2前	30	1	○	○		○		○		
○			国家試験演習Ⅲ	国家試験受験に向けて、基礎科目と専門科目を結びつけて理解を深める。協同学習など実践的な学習方法を身につける。	2前	30		○	○		○		○		
	○		福祉住環境論Ⅰ	臨床能力を高めるために、福祉住環境コーディネーター2級の資格取得を目指す。	2前	30	2	○	○		○		○		
○			国際医療福祉	諸外国の医療福祉の現状、技術について学び、将来の作業療法士としてあるべき姿についての思考を深める。	2後	30	1	○	○			○	○		
○			作業療法研究法Ⅰ	卒業研究に向けて、研究の必要性、研究のデザインの考え方を学び、研究計画書の作成を行う。	2後	60	2	○	○		○		○		
○			作業療法評価学実習Ⅲ	グループ演習を取り入れ、自己理解、他者理解を深め、対象者と作業療法士との適切な関係について学ぶ。	2後	30	1	○		○	○		○		
○			職業関連技術論	代償機能、適応機能等に関する基礎的知識・技術のうち、職業前評価・訓練について学ぶ。	2後	15	1	○			○		○		
○			発達障害治療学	発達の視点から発達障害への関わり方とその解釈について理解し、発達障害の疾患・障害特性に応じた作業療法アプローチについて理解する。	2後	30	2	○	○		○		○		
○			身体障害治療学Ⅱ	脳神経障害、脊髄損傷、神経・筋疾患、末梢神経損傷、関節リウマチ、骨関節疾患などの作業療法を学ぶ。	2後	60	4	○	○		○		○		
○			精神障害治療学Ⅱ	各精神疾患に対する具体的な評価、治療方法について実践的に学ぶ。	2後	30	2	○	○		○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法士学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			老年期障害治療学	老年期の特性を知り、老年期を迎える対象者への作業療法治療を習得する。	2後	30	2	○	○		○		○		
○			作業療法技術論	代償機能・適応機能の基礎知識・技術として、義肢装具や環境調整について学ぶ。	2後	30	2	○	○		○			○	
○			作業療法総合実習Ⅱ	体力測定、ウエイトマシンの体験・指導の経験を経て、自分の体についての意識を高めると同時に、学んだ内容を他者に伝えていくことを通し、コミュニケーションづくりに繋げていく。	2後	30	1		○	○		○	○		
○			作業療法総合演習Ⅲ	臨床能力を高めるため、臨床実習に必要な実技や知識を演習・OSCE（客観的臨床能力試験）を通して学習する。	2後	30	1		○		○		○		
○			作業療法総合演習Ⅳ	生活環境の調整の中でも、対象者にどのような自助具があれば生活のしづらさが軽減できるのかを考え、自助具作成の計画を立案し、計画に従って自助具を作成する。	2後	30	1		○		○		○		
○			臨床実習Ⅰ	実際の現場にて指導者の指導のもと、症例を担当し、評価計画立案と評価の実施を行い、治療計画立案まで行う。	2後	180	4			○		○			○
○			国家試験演習Ⅳ	国家試験受験に向けて、主に問題演習などを通して、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の理解をより求める。	2後	30		○	○		○		○		
	○		福祉住環境論Ⅱ	対象者の作業遂行（福祉用具や住宅改造）を整えるために、必要な知識技術を学ぶ。	2後	30	2	○	○		○			○	
○			作業療法研究法Ⅱ	研究計画書をもとに、実験、データの収集、集計、統計処理、結果の解釈を経て、論文作成、発表を行う。	3前	60	2	○	○		○		○		
○			作業療法特論Ⅰ	臨床実習に向けて、作業療法評価から治療の意義などについて考え、記録報告を作成し臨床力を養う。	3前	30	2		○	○	○		○		
○			臨床実習Ⅱ	実際の現場にて指導者の指導のもと、症例を担当し、評価・治療実施を行う。	3前	405	9			○		○			○
○			国家試験演習Ⅴ	これまでの総復習を行い、国家試験合格に向けて出題の傾向と対策を分析し、実力の向上を図る。	3前	30		○	○		○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法士学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			作業療法特論Ⅱ	グループワーク・口頭試問を繰り返しながら、国家試験のポイントと理解を深めていく。	3 後	30	2	○	○	○		○			
○			作業療法総合演習Ⅴ	少人数ゼミ形式などを利用し、主体的学習態度の育成を目指す。	3 後	30	1	○		○		○			
○			臨床実習Ⅲ	実際の現場にて指導者の指導のもと、作業療法を総合的かつ実践的に学ぶ。	3 後	405	9			○	○			○	
○			国家試験演習Ⅵ	これまでの総復習を行い、国家試験合格に向けて出題の傾向と対策を分析し、実力の向上を図る。	3 後	90		○	○		○		○		
合計				76 科目										3510単位時間(141単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
所定の授業日数の3分の2以上の出席があり、全ての授業において「可」以上の成績をとり、進級、卒業判定会議において合格と認められる。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。